

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2295 号

Risk factors of fat embolism syndrome after trauma: a nested case-control study using a nationwide trauma registry in Japan

外傷後脂肪塞栓症の危険因子：日本外傷データベースのネステッドケースコントロール研究

戒能 多佳子（かいのう たかこ）

博士（医学）

論文内容の要旨

脂肪塞栓症(FES)は稀ではあるが、重症化する疾患である。しかし、症状は様々で検査や診断基準も標準的なものがなく、リスク因子の特定は診断のために重要である。FES は一般的に下肢や骨盤の骨折を伴う外傷患者に合併しやすいことが知られているが、その他のリスク因子はわかっていないことも多い。今回我々は日本外傷データベース(JTDB)を使用し、未知の危険因子を推定することを目的とした。2004年から2017年のJTDBのデータを使用しプロペンシティスコアマッチングによって、FES発症群と対照群(FES非発症群)を抽出した。主要評価項目は、入院期間中の脂肪塞栓発症とした。結果、0.1%が外傷後FESを発症した。FES群では対象群より、有意に四肢の長管骨骨折および開放骨折の割合が多かった。外傷に対する治療では、FES群の方が骨折手術を受けた患者の割合が多かったが、手術を受けるまでの時間には差はなかった。FESの危険因子を特定するための条件付きロジスティック回帰モデルでは、四肢の長管骨骨折と、開放骨折にFESとの関連があった。初期の骨折手術の有無には関連はなかったが、手術までの時間の遅れには関連があった。FESは、四肢の骨折、特に長管骨骨折、開放骨折と関連があり、早期の骨折手術は発症を減らす可能性がある。